

練馬・文化の会 会だより

共同代表：有原誠治 大内要三 小岩昌子 小沼綾子 田場洋和 吉田巳蔵
事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616

(会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会) ホームページ <http://www.nerimabunka.com/>

故古賀先生の愛弟子・眞嶋氏による「やさしい経済講座」開始へ 8月24日(水)後6時半～ ココネリ研修室で 参加費300円

安倍政権の急速な支持率低下がはじまりました。「戦争法案」「秘密保護法」それに「共謀罪」強行採決とくれば、支持率低下は当たり前といえることでしょうか、意外にマスコミの論調が甘いのが安倍の経済政策—アベノミックスです。そこで、文化の会の事務局長だった故古賀義弘先生から直接薫陶を受けた眞嶋康雄・国学院大学経済学部講

師にお願いして、連続で「やさしい経済」講座をフリースペース形式でこなしていただくことになりました。「会だより」6月号から2ページにわたる「経済」講座が始まっており、この7月号でも第2回の講座を執筆頂きました。お互いの論議を活発にというのが主たる狙いですので、事前にこの講座、チラシを読んでの準備をお願い致します。

あきらめない沖縄県民に伝えていくには— アメリカ御用聞き日本政府を変えよう ～7月4日の「沖縄戦を考える練馬のつどい2017」に100人超す参加者～

7月4日、台風の接近が伝えられる悪天候にもかかわらず、100人を超える参加者を得て、沖縄戦を考える練馬の集い2017(以下、「集い」と省略)をココネリホールで持ちました。文部科学省の検定意見により、沖縄戦における住民の集団自決の歴史の記述を高校教科書から削除、隠ぺいするという暴挙に抗議、その撤回を求めて集まった練馬区内の市民団体、平和団体、労働組合等が母体となって始まった集いは今年で8回目を迎えました。練馬文化の会のみなさんも加わっています。

日本の近現代史、とりわけアジア・太平洋戦争における日本の加害責任をことさら“自虐史観”として貶める歴史修正主義は、ネトウヨ現象となり、インターネットをはじめとするSNS空間にあふれかえっています。私たちはそんな風潮が広がる中で、歴史の真実に向き合うことを愚直に取り組んできました。この8年の集いを振り返ってみますと、過去の残酷で悲惨な戦争の結果、生まれた戦後日本国家がどういう世界支配システムの中に組み込まれ、その変容を経て、今日に至っているのかという問題意識が私たちの中で徐々に醸成されていったかがわかります。

実行委員会の中で、現に起きている沖縄と日本の問題を取りあげることが沖縄戦の問題を原点としている集いに果たしてふさわしいかどうか、議論がありました。そこは「見る前に翔べ」です。思い切って、行政法を専門にされている白藤博行



さん(専修大学)をお招きして、「これで日本は「法治国家」と言えるのか?—辺野古新基地建設—国家と対峙する沖縄の地方自治」をテーマにお話していただくことにしました。

行政法などと聞くとたまに講義を受けてもちっと面白くなかった記憶しかない40年以上前の不真面目な学生にとって、沖縄県と日本政府との間で行われている地方自治をめぐる法的な争いは実にアクチュアルで興味深いテーマでした。このレポートで詳細を伝えることはできないので、当日、白藤さんがご用意された講義レジュメを改めてお読みいただくことを強くお勧めします。

辺野古争訟にかかわる「法治主義的自治侵害」ともいふべき諸問題は、白藤さんが指摘されるように沖縄だけでなく、日本全体に関係する普遍的問題です。国と地方間の法治主義・法の支配の未定着⇒地方自治の未定着⇒人間の尊厳と基本的人権の未定着、つまりは憲法の問題につながっています。沖縄を日本の例外地域にし「沖縄に閉じこめ沖縄に押しつけ」たままでよとするニッポン人が多数を占める本土。三権分立が機能しない裁判所。ほんとにどうしようもないところまできているのかもしれませんが。

だが沖縄の人びとはあきらめていません。白藤さんの結語、「国治が自治を潰し、無知が法治を潰すようにみえる今こそ、立憲地方自治の重要性を確認して、憲法のコア・地方自治のコアを守る覚悟を持ちたい。」まさにそのとおりです。翁長知事は沖縄県議会に諮り、国に工事の差し止め訴訟を7月中にも踏みきり、8月12日には県民集会も行われます。まさに正念場、みなさんもいっしょに応援してください。(下石神井 横山哲也)

都議選勝利は、安倍暴走政権を追い詰めた—2017年7月都議選結果—

7月2日投票の東京都議選の結果は、安倍政権の国政私物化、憲法改悪に都民の怒りが噴出し、自民党の歴史的な大敗という審判が下されました。確かに、自民党批判の受け皿になったのは、小池都知事の都民ファーストになりましたが、これは、都政の一定の実績と、自公政権、民進党への不満や批判が出たと思われまます。その中で、共産党が、17議席から2議席増加させたことは、

政党	当選者数	選挙前議席
都民ファ	55	6
自民	23	57
公明	23	22
共産	19	17
民進	5	7
ネット	1	3
維新	1	1

マスコミの予想を覆しただけでなく、無党派層で、都民ファーストに次ぐ票を集めたことに注

目に値する。練馬の問題でいうと、市民と野党の共闘という観点で行くと、残念ながら、戸谷

さんだけが当選、浅野かつひこ氏、菊地やすえさんが落ちたことは、これから総選挙で野党共闘を進めるうえで、非常に難しい局面を迎えたことになった。民進党の藤井ともり氏は、共闘に消極的だし、都民ファーストは、国政では、どこまで野党でいられるのか。この都議選の結果は、国政に大いに影響を与えるのは、間違いない。共謀罪の廃案を含めて、森友問題、加計学園問題で安倍政権を追い詰め、

村松かずき	都民新	53,948
尾島こうへい	都民新	53,780
小林健二	公明現	43,577
戸谷えつ子	共産新	34,238
柴崎幹雄	自民現	32,624
藤井ともり	民進新	29,339
山加あけみ	自民現	27,098
菊地やすえ	ネット新	15,931
浅野かつひこ	民進現	13,442

総選挙で、市民と野党の勝利しなければ、意味がない。すべての点で、市民の出番です。声を上げよう。
(森田彦一記)

「ねりま沖縄映画祭2017」の準備順調に進む（8月号にチラシ同封） 9月28日～10月9日、14作品を日大、武蔵大、区の公共施設で上映

昨年の「沖縄映画祭」は江古田のギャラリー古藤をメイン会場で行われ、延べ1000名の参加をいただきました。今年の上映会場は江古田の武蔵大学、日大芸術学部をはじめ、練馬駅周辺の公共施設を含め5会場での分散開催となりました。上映作品数は、実行委員会が10回近い試写会を経て厳選した14作品（原則監督のトークあり、トーク付きで1作品1000円の鑑賞代）です。

総合チラシは8月初旬には発行を予定していますが、日にち・会場別の上映作品タイトル（監督）は下表のようになります。

9月28日（木）：日大芸術学部で「沖縄さまよう木霊」無料プレ映画祭

9月30日（土）：武蔵大学で午前「Born Again」（琉球朝日放送）上映と川田文子トーク。午後は森口豁3作品（「沖縄の18歳」

「沖縄人類館」「『沖縄の18歳』は今」）上映+森口・永田浩三トーク

10月1日（日）・7日（土）：ココネリ研修室・同ホールで下記4作品「与那国カウボーイズ（島洋一監督）」、「老人と海（ユンカーマン監督）」、「ホテルハイビスカス」、「琉球シネマパラダイス（壬生智裕監督）」

同 8日（日）・9日（月・祝）：区役所地下多目的ホールで下記5作品「はての島のまつりごと」（土居鮎太監督）、「スケッチ・オブ・ミャーク」、「イザイホウ」（野村岳夫監督）、「沖縄のハルモニ」（山谷哲夫監督）、「デジタルで甦る8ミリの沖縄」（真喜屋力監督）

○前売り（原則1作品1000円、当日+200円）は文化の会事務局員か幹事までご連絡ください。

17年度会費未納の方には郵便振込用紙を同封いたしました。

17年度の年会費（2000円）未納の方には郵便振込用紙同封致しました。行き違いですでお振込みいただいた方は失礼の段お許しください。お問い合わせ等は、

轡田（電話3948-5129） までお願いいたします。